礫陵新聞
発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行 編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所 (76)5424

行事予定

八月二十一日	登校日
九月一日	始業式
二十一日	運動会
二十六日	修学旅行

もう一度検討を

長髪を考える座談会

我校の頭髪の自由は、今年一月から許可され現在に至っている。心配されていた風紀の乱れは、生徒の自覚への期待もむなしく、悪い状態へとなりつつあるようで、生徒の中からも意見の声が聞かれるようになった。一方、北九州市内の大部分の高校が短髪であったため、長髪自由化運動が相次で起こり、話題を呼んでいる。しかし、頭髪問題に関しては、各学校とも知識が少なく、良い結果は生まれていないようである。この様な問題を秘めている、頭髪について又、「自覚する。」ということを再認識するべきではなかろうか。

やはり自覚が

一応、本校生徒の頭髪の自由化については、決着はついていたのだが、これに関しての後に残された風紀上の問題は、予想通りの結果となりつつある。しかし風紀委員会代議委員会等では、何の対策も講じておらず、生徒の批判の声を集めている。しかも、その様な事柄を後に、代議員会などでは、重要な問題を検討していることを諸君は確認しておく必要がある。

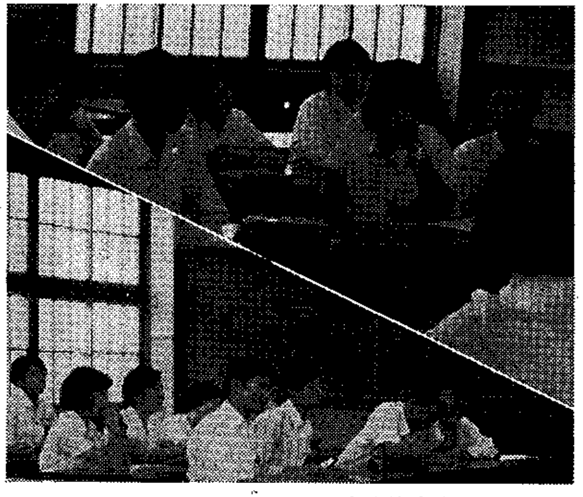
最近、無帽登校が多くなった事はいうまでもなかろう。だが、注意を促す生徒は全くと言って良いほど少ない。「多い、だから悪いのだ。」そう思うだけでは、済まされないのだ。これこそ風紀委員の活動の見せ所ではないかと思う。風紀委員会は、今年、数度しか行なわれておらず、又、話し合い自体、長髪に触れていない状態である。しかし、委員長の話しでは、今度は必ず長髪について話し合ってみると述べている。どの様な結果が生まれるか期待したいものである。

諸君も知っての通り、「生徒の自覚の上に立って、かつ今の生徒の心得が、完全に守られた時点に立って全面的に長髪の自由を認める。」というのが職員会議での長髪の許可内容であったが、まず、この中の自覚ということ自体、問題なのである。一見やさしそうな二字の言葉には、大切な意味が含まれているのである。生徒の自覚が足りないために無帽登校や、頭髪に不潔さを感じさせるのではなかろうか。

去る七月十・十一日の二日間にわたって社会科教室・第二閲覧室に於いて、「長髪について」の座談会を催した。だが、集まったのは部員を除いて数名という非常に嘆かわしい有様であった。これに時間が短かった事も重なり、事実期待したほどの意見も出なかった。又、男子自身の問題であるのに男子が少なく、男生徒の意見は見い出せなかったのが残念であった。この参加人数が少なかった事にも生徒の自覚のなさが、ありありとうかがえるようだ。

女生徒の意見は、大体統一されていて特別変わった意見は出なかったようであった。しかし、一部ではあるが、短髪賛成の意見を唱える者も出て会場をわかせた。

次に揚げるものは座談会での意見である。


少数ながら熱弁をふるう生徒諸君

―長髪をどう思いますか―

二女 見た時に不愉快な感じを与えない程度なら良いと思います。フケの見える人は、イヤな感じがしますね。

一男 ある程度なら自由で良いと思いますが、長く伸ばし過ぎると案外おかしく見えますし、その場合、やはり、忠告が必要だと思います。

二男 学校で規定がない以上、まわりの人が、注意することができないのじゃないかと思うね。

一女 身だしなみは、必要ではありますが廊下などで鏡をのぞいているのを見るとキザだなんて思いますし、いやな気持ちになりますね。

一女 長く伸ばし過ぎている人は、お金がないからなのか、周囲の人の気を引きたいのか、それとも、面倒なのかその気持ちが分かりません。

二男 長髪を認めた以上、とやかく言う必要はないと思います。皆すでに高校と云う一団体の中で生活しているのだから、頭髪くらい自分の考えで自由にさせても良いと思います。

一女 私は短髪の方が学生らしくて良いと思います。高校時代はスポーツに勉学に励んでいる時ですので、頭など扱う余裕はないと思うのです。

―学生らしい長髪などという言葉を聞きますが、長髪に限度は必要だと思いますか―

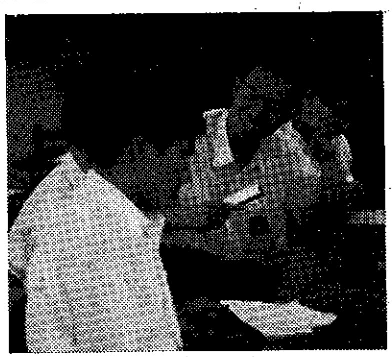
二男 今のように風紀の乱れ（無帽登校等）が続くならば必要であると思います。

三男 個人の自覚にまかせるべきだと思うね。生徒も自分なりに考えているんじゃないの。

一女 生徒の自覚にまかせても風紀の乱れは直らないのじゃないんですか。直らないのをそのままにしておくことはないと思います。なぜ、長髪を許可した時に制限をしなかったのでしょう。

二男 規則は必要ないと思いますね。ある高校では、頭髪に規制を与えられる事は、高校生として認められていない事だとしていますし、我々は高校生だということを忘れないでほしいですね。この社会の中で行動範囲を限られた僕たちに頭髪の自由くらい許されても良いでしょう。

二女 高校生は、まだ学生らしいという事をモットーとするべきだと思います。制限を与えなければ、これが制帽廃止や、学生服にまでも及んで来ると思います。


座談会の中にも笑いが

―無帽登校が多くなって来ましたがこれについてどう思いますか―

二男 無帽登校するのは、学生としての自覚が足りないのだからそのような状態が続くのならば、もう一度、長髪の許可について討議する必要があるのではないでしょうか。

三男 学校は学問をする場所である。そんなにかっこうをつけるべきではないね。案外、女子に嫌われるよ。

一女 いやな感じがしますし、高校生らしくないですね。風紀委員が注意するべきだと思います。

―現在、校内封鎖という事態をむかえて長髪の許可を得た、といった学校があるがどう思うか―

二女 学校封鎖をしてまでも意義があるかを考えた上でなら良いと思う。でも、何の考もなく面白半分にやったのなら、もう一度、考えなおす必要があると思います。

一女 長髪の許可が出たらすぐに、風紀上の問題への対策を練ってほしいです。そして、生徒に長髪というものを理解させるべきであると思います。

―現在、自由運動を行なっている学校へ言いたいことは―

二男 自分の学校内だけで考えずに他校の意見を聞き、良い結果へ導いてほしいですね。

※座談会での意見は、自由で良いというのが多く、対立した論議はあまりありませんでしたが、出席してくれた生徒皆さんは次々と意見を出してくださいまして、我新聞部も参考になる意見を得られ、喜んでいます。これからも、話題になっている事柄の話し合い等を度々行ないたいと思っていますので、話し合いについての意見などがあったら部屋まで。

補習は是か非か？

補習について

自主性と習得

今度、各クラスで、夏休みに補習を行なうか否かについての話し合いが行なわれた。最終的には夏休みに補習を行なうことになった。

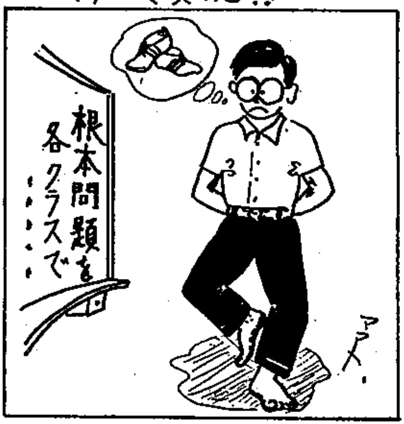
補習の意味は、きまった授業のほかに勉強することである。つまり、これは今までやってきた勉強の復習、かつ不完全な科目を完全にマスターすると共に、自己の向上を計ることを目的としている。学校もこのような方針で、夏休みに先生方がわざわざ出てきて、補習を行なうわけではあるが、学校には、補習を生徒に強制的に受けさせるような傾向がある。これが生徒に反発を覚えさせ、補習を嫌わせる原因の一つになっているのではないだろうか。

そこで、二、三の補習に対しての生徒の意見を、取り上げて見ると「やった方が良い理由」として一学期間のおくれを取り戻せる。規則正しい勉強ができるなど。「ない方が良い理由」として、先生から言われたから来る。そして、ただ授業を受けてから帰るのでは、すべてが受身で自主性にかける。夏休みというのは、本来自主的な勉強をするものであって、人から教えられるのはおかしいなど。「過去に補習をやった結果はどうであったか」として、時間の浪費、自分のものとして修得できなかった、役に立ったなど。人それぞれさまざまであった。「補習の意義は何か」として、一学期間のおくれを取り戻せる。しかし、この問いに対しては、わからないと答えた人が多かった。これらを聞いて、痛切に感じられたことは生徒はもっと努力をするべきではないだろうかということである。というのは、補習を受ける態度が人によって一概には言えないが、大体の人は補習を受けなければいけないから受ける。それが、態度にも反映して、だらだらと授業を聞いてしまい、自分の何の役にも立たない。だから、補習をしない方がいいとか、補習の意義がわからないと答えてしまうのではないだろうか。

したがって、補習は学校から強制されるべきものではない。受けたい人は受ければ良いし、受けたくない人は受けなければ良い。つまり、補習は自分の意志に基づき自分に適した方を選べばよい。が、もし受けると決めたのならば、補習の意義を達成するために、何らかの努力をするべきである。そうすることによって、自己の向上を計るのだ。

若高戯評

◎ 偉い委員さん!!



「根本問題か。‥
チェッ、又、上靴盗まれた。」

危うし！生徒会

今、代議員会で何を話し合っているか知っている人は、はたして何人いるだろうか。

六月、代議員会で、生徒会のたてなおしのため、議題の一つに根本問題を取り上げた。この問題は今まで生徒会に関心があった人は少なくとも一度は、考えただろう。しかし、いざ会を開いてみると出席率は非常に悪く、その上意見も全くといっていいほど、出ないのである。こういう状態で、根本問題にのみ議論を続けているとこれから行なわれようとしている行事について、生徒の意見というものは全く反映されなくなる。

そこで代議員で根本問題と行事についてどちらに重点をおくか、各HRで決を採り、その結果をもとに話し合いを続けようということになった。

一年の代議員はほとんど「内容がわからない」と言う。若高に入ってから、わずか三ケ月という短期間であるので、それがあたりまえかもしれない。しかしそれをいいことにして、〝考える〟ということを忘れているのではないか各HRで手を上げるだけで、事を決める。そのような現状で生徒への感心を高めるというのは、むずかしい。

生徒との接触を深めるということが公約として上げられていたと思うが、現在実行されていない。その理由として、執行部は今のところ代議員会に追い回されているところと言うが、生徒との接触なくして真の生徒会が成立するのだろうか。

生徒会とは、だれのものか。だれによって動かすのか。ここで再び考えてもらいたい。

―現在、生徒会に関心がある人― 27%

―現在、代議員会で何をやっているか知っている人― 34%

―現在、生徒会の必要性を感じる人― 76%

礫陵言

例年にない梅雨前線豪雨と、長い梅雨期も終って、西日本各地は十日、五日ごろから梅雨明けとなった。若戸大会は室内選抜だけでお茶をにごした形になったが、甲子園予選で、野球部がシード校の戸畑商業を破った快挙は、梅雨明けにふさわしい、カラッとしたできごとだった▼こうしていよいよ待望の夏期休業に入る。一年生は直ちに恒例の九重合宿に入るが都塵をはなれて自然の大気を満喫し、集団生活の秩序と楽しさを体験してほしい▼三年生は早速校外模試がはじまる。二十日は九大学力コンクール二十七日は関西模試と、息つく暇もないが、それぞれベストを尽して、自己の力を試してほしいと思う。七月末から八月の盆ごろまで各学年とも夏期課外講習が計画されているが、この期間に自分の不得意を補ない、長所を一層のばすよう努力することが望ましい▼体育クラブも多彩な活動を開始する。庭球、剣道の全国大会出場をはじめ、各部とも合宿や対外試合を控えているらしいが、恐らくやって来るであろう灼熱の太陽にうち勝ってほしいものだ▼勉強でも運動でもそうだが、断続的な努力はものの水準にとどまって、進歩はないものだ。毎日毎日の積み上げが、大きな成果となってあらわれてくるものだから、少しづつでも間をおかないように、努力することが肝要と思う。私自身はかつて剣道をした経験があるが、前日使用した剣道衣の湿りが翌日ももちこされているような練習をしたときだけ、技倆も向上した覚えがある。前日の疲れとねむけが残っているうちにした翌日の勉強は、知識の巾も倍増したように感じたものだが、どうであろうかいわゆる夏休みが長い期間設けられているのは、学校教育の行なわれている間の自主活動の不十分さを補なう意味からである▼大学生は自主活動が十分できるところから夏休みも二カ月間にわたっているわけだ。従って、夏休みは単なる「休暇、休養」期間ではなく自主活動の期間ということを忘れないようにしたいものである。（よ）

主張

夏休みに体当り

毎年、夏休みを控えて、我々が考えることは、如何にして夏休みを有意義に、且つ、楽しく過ごすかという問題だろう。

このことは、小学校の頃から何回となく、くり返しているきまり文句である。夏休み前に勉強や読書、その他いろいろの計画を立て、張り切って夏休みを迎えたが、結局は、計画だおれしてしまった人もいるだろう。無計画にやって来る夏休みにただ無関心に身を任せて、何とはなしにだらだらと過ごしてしまう。つまり、このような人は、貴重な四十二日間をただ浪費してしまうと言うことで終わってしまう。「去年の夏休みの間に、何のプラスがありましたか？」と聞かれて、果たして何人がりっぱに答えられるだろうか。ほとんどの人が、何も答えられないと思う。一度だけでも、いや、できれば毎年ほんの小さな事でも良い、胸を張って、〃これが自分の収穫だ〃と言えるようになりたいものである。

例えば、補習である。今度、先生方の要望により、昨年の反省などを、各クラスで話し合ったことと思う。その結果、やはり、補習も前例にもれず、プラスになったと言う人は、ほとんどいないようだ。結局ただ補習一つをとり上げて見ても自分にとって役に立たなかったのを認めざるを得ないだろう。皆は、どういうつもりで、つまり、どういう心構えで、補習を受けたのだろうか。みんなは、補習によって、基礎をしっかり固めようと思ったとか、授業中の復習のつもりで受けたとか、人が受けるから、自分だけが取り残されるように思われたからだとか、ひとりひとり、いろいろな理由を言うだろう。中には、何となく、勉強に対する意欲さえ持たずに受けた人もいるだろう。しかし、大抵の人が、少なくとも何らかの目的を持って補習に臨んだ態度がうかがえた。となるとどうして役に立たなかったのか、という問題が必然的に生じてくる。これは、生徒自身の問題であるが先生についても考えられないことはない。なぜなら授業の進め方が、自分に合わなかったということを、時々耳にするからである。しかし、これは、生徒の方の努力が足りないからではないかと思う。合わせようとすれば、合わないことはないだろう。近ごろよく言われることだが最近の若高生には、努力が足りない。もっともっと努力するべきである。努力というものは、いくらしても、徳にこそなれ、損にはならないのだから。つまり補習については両方の授業に対しての考え方に原因があるに違いない。ここまで進まなければいけないと、ページ数ばかり気にして、内容が薄くなってしまったということもあるだろうし、生徒の程度を無視して、高度な問題ばかりをしたり、という様なことではいけない。生徒が望んでいるのは、もっとていねいでわかりやすい授業の進め方であり、先生が望んでいるのは、きちんとした、真面目な学習態度であると思う。もちろんこの他にも授業の時間が長すぎるとかいう、いろいろな原因がある。今年の夏休みは、先生も生徒もまだこの問題について考え、最も中味の濃いものにしなければならない。

補習に限らず、何についても、いろいろな方法を試してみて、一番自分に適したやり方——つまり「マイペースでやり抜く!!」そして今年こそ、この夏休みには、これとこれを絶対にしてしまおうという計画というよりは、むしろ野心とも言うべき強い意志を持って、夏休みに体当たりし、あの夏休みは本当に充実していた、と思えるような、思い出深い夏休みを過ごしてみよう。

〃二度とない青春・高校生時代〃その中で、一度くらい思い出に残るような夏休みを送りたいものである。

行きづまる大学論

〃近代化〃の脱皮必要

——大学とは何か——

六八年春、日大と東大を軸に始まった「68－69全国大学学園闘争」は、その後も全国津々浦々に燃え広がり、いつ止むとも知れない状況である。おもだった大学のほとんどすべてがバリケードで封鎖され、いとも簡単に「無期限スト」に突っ込む。そしてあとはおきまりの人民裁判的大衆団交、封鎖解除をめぐる内ゲバ騒ぎ機動隊導入、活動家の大量逮捕、あげくが「果てしなきマンモス裁判闘争」への突入。現在の告発者となった学生達は自らを傷つけながら、これでもか、これでもかとばかり、果てしなき進撃を続ける。告発者の間にもまた、いろいろとむずかしい問題が持ち上がり、足並みの乱れが目立つのも無理のないところ。「綱張り的闘争」ということばさえ聞かれるこのごろだ。それでいて、底知れぬ闘志とエネルギーをかきたてられるようにして学園闘争の輪は広がり、いったん消えかかった火は再び燃え上がる。ひたむきに走っていたエリート・コースの道を自らふみはずし、卒業を拒否してまで闘いつづける、その動機は何か。

「大学立法について……」と声をあげただけで、その学生は大学当局が配置している警備員に力ずくで学外に追放されてしまう状況の日大。全共闘の活動家たちは依然として体質改善がされていない大学での授業を拒み、明大学生会館などに寄宿して〃古田体制〃と叫ばれる日大王国の崩壊を待っている。彼らの頭に描かれている「大学」のイメージは、ある面ではあっさりしている。二十億円問題が示す学内の〃黒い霧〃キャンパスに君臨する体育系学生、政治権力と結びつき、政治の流れに合せた教育。これらをすべて吹き飛ばしたところに〃新しい大学〃が生まれるというのだ。東大型大学も、日大型大学も、いずれも現体制が生み出した共通の矛盾を含んでいると言えよう。

今、大学論は深刻なカベにつきあたってる。大学改革は大学内部だけで完結するものなのか。それとも社会全体の改革によるしかないのか。大学側と政府・財界との間に基本的対立を含みながらも、制度の中の大学を前提としている点では共通しているが、これまで断片的に登場している学生側の主張には「反大学」「大学解体」という言葉に示されているように、制度としての大学さえもはや大前提になりえない部分もある。「反大学」「大学解体」とは今の大学がかかえている諸問題を浮き彫りにするための言葉の上だけでの存在なのか。この宇宙では存在しえないものなのか。それともこの宇宙にも存在しうる具体的な姿を持っているのか。

大学とは何か——このテーマは、わが国に大学が生れて以来、大学人の念頭にあった。しかし、この問いかけが、初めて自覚的な言葉として、全社会的な広がりを持つようになったのは、学生たちの直接行動によってである。中教審答申、大学立法、東大の大学改革準備委員会が出した改革試案のほか、各大学が出した諸改革案も、大学に通ずる新しい理念を構成するまでにはいたっていない。他方では、告発者となった学生の主張も、直接には新しい大学のイメージを提示しているとはいえない。

世界の常識が一番求めているのは、学生たちはどんな大学を求めているか、ということである。それに対する回答は、世間の言葉で語られるのか。それとも世界の言葉と学生の言葉とは深い断絶によってへだてられるしかないものだろうか。彼らは何のために闘うのか。大学とは何か！これらを、我々高校生はどう考えるか——。

基地

(2)

沖縄基地ますます強化

昨年の4月28日に、米軍基地労働者の組合である全軍労働組合が、歴史的なストライキをおこない、アメリカの極東最大の基地である沖縄をマヒさせたことは、記憶に新しいことだろう。

沖縄返還問題が論議され、佐藤内閣が「アメリカの理解と協力による領土問題解決」などと、さかんに宣伝をしているとき、それとうらはらに、沖縄では米軍基地の大増強が、しかも核基地の強化が進行中であるという事実を、はっきりと知っておかなければならない

現在、沖縄はアメリカの「アジア侵略の根拠地」となり、ベトナム、朝鮮中国を目標とする戦術核基地として、ますます重要度を加えている。アメリカ側によれば沖縄の米軍基地の重要な役割と、すぐれた機能は、その地理的位置の重要性もさることながら、米軍が施政権をもって、自由に使用できる基地だというところにある。それで、アメリカはこの沖縄を極東戦略のかなめ石」とよんでいる。

安保問題とあわせて、沖縄問題が、70年問題の中心としてうかびあがってきたのは、沖縄県民を中心とする日本国民の、沖縄返還を要求する運動の、大きいもりあがりからはなれてみることはできない。第2次世界大戦以後、沖縄県民は、長い間アメリカの不法な占領による民族的屈辱、生活の破壊と基本的人権侵害に対し、祖国復帰を叫び続けてきたぬである。沖縄県民の要求は、昨年の3大選挙（主席公選、立法院選、那覇市長選）ではっきりと、これらの基地をいっさい撤去した、即時無条件全面返還であることを表明したのである。今日も、沖縄では中共、ソ連に向けられた核弾頭兵器の試運転の音がけたたましく響きわたっている。「戦争と背中合わせ」これが基地沖縄だ

問題多き万国博

万国博覧会まであと二百三十九日。皆はもう、万博のことはいやというほど聞き知っていることと思う。

もう一度万博にはどういうものが出展されるかを、考えてみてほしい。皆は、近代科学の粋を集めて作られたものだけが展示されると考えているのではないだろうか。もしそうだとすると、それは、大きな間違いである。もちろん皆が考えているように、そのようなものも展示されるが、他にも参加国の文化遺産、社会や経済の発達の過程、我国では郷土の民芸品なども展示されるのである。

さて、皆はすでに知っていることと思うが、我国の国民総生産は西ドイツを抜いて、世界第二位にのし上った。しかしその反面、国民所得はなんと世界第二十位なのである。また、アメリカ合衆国では、輝かしい科学の発達（宇宙開発のことである）の裏に、黒人問題といういつ爆発するかわからない爆弾を抱えているのである。

これと同じようなことは、万博にも言えるのではないだろうか。例えば、我国では、世界の民族資料を展示するために、それらを買い集めていた学者グループが、学生に批判されたり、「万博とは安保から国民の目をそらすためのものだ」と言って、開催に反対する人がいたり、万国博協会の必死のPRにもかかわらず、関心度は意外に低かったり、万博の工事費が足りないために、シンボルゾーンを縮小しようという話が出ている等々、書けばきりがないほどたくさんの問題がある。また、フランスでは、昨年末の危機で、万博の予算が半額に削られたということである。そして、チェコスロバキアでは、動乱のために準備がスムーズに進まなかったので、不参加ではないかと思われていたが、日本人の暖かい気持ち（?）への感謝として、無理して参加するということである。そして、今問題になっている沖縄では、B五十二や新労働布令などの諸問題に追われて、万博どころではないのである。

このように、万博は表面の華やかさの底に、幾つもの問題を抱えているのである。だから、私たちは表面の華やかさに惑わされずに冷静な目をもって、二百三十九日後に開催される万国博覧会を見守ろうではないか。

近づく激動の70年

関心高まる安保

七十年の六月、安保改訂に当ってみなさんにも条文を知ってもらう為に今回から記載します。

安保条約（旧安保）は、一九六〇年一月新しい条約（新安保）が結ばれて、これと代わったのであるが、「安保改訂」の問題は、日本の国論を二分して激しい論議が行なわれ、激しい改訂反対の闘争が行なわれた。なかでも、国会承認の段階で、戦後最大の事件をひきおこしたことは記憶に新たなところである。

安保条約が日本の安全と世界平和にとってプラスになるかどうか国民一人一人の幸福と結びつく問題として、われわれは充分に安保条約のもつ意味を考えなければならない。

基地撤去の集会

〈第一条〉締結国は、国際連合憲章に定めるところに従い、それぞれが関係することのある国際紛争を平和的手段によって国際の平和及び安全並びに正義を危うくしないように解決し、並びにそれぞれの国際関係において、武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎むことを約束する。

締約国は、他の平和愛好国と協同して、国際の平和及び安全を維持する国際連合の任務が一層効果的に遂行されるように国際連合を強化することに努力する。

〈解説〉国際憲章と条約との関係を規定したもので、国連の安全保障措置が、日本のとるべき本来の安全保障体制であるとしている考え方から、積極的に思想の実現に努力するということの規定が設けられている。

〈第二条〉締約国は、その自由な諸制度を強化することにより「これらの制度の基礎をなす原則の理解を促進することにより、並びに安定及び福祉の条件を助長することによって、平和的かつ友好的な国際関係の一層の発展に貢献する。締約国は、その国際経済政策におけるくい違いを除くことに努め、また、経済的協力を促進する。」

〈解説〉前段は政治関係の規定で、後段は経済協力を規定し、基調にもとづく政治関係と経済協力を規定した項である。

手芸専門の店
しらき
若松区明治町

龍そば
本町銀座　TEL ⑰ 4320
TEL ⑰ 4047

なぜ延期できぬ！

第19回若戸大会

去る七月十一日、恒例の若戸大会が、若松商業高校、二島小学校、青葉ケ丘高校、文化体育館、本校で開催された。今年は雨のため野外競技は行なわず、室内競技だけが各校で行なわれたのである。若松商業高校では、バスケット、剣道、柔道、二島小学校では、卓球、青葉ケ丘高校では、女子三年のバレー、文化体育館では、女子一・二年のバレー、本校では、男子のバレーというように各種目に分かれて試合が始められた。

応援のない中で

▼武道▲

明るく清潔な若商の武道場では武道独特の、男性らしさと「動中の静」が感じられた。

我校が誇る剣道の方は、やはり強く、二、三年は他校を寄せつけず、圧勝していた。

第一回戦、中野君を大将とする二年の剣士達は、合計五分間という短時間で勝利を修め、それに続いて、森君を大将とする三年の剣士達も、短時間のうちに勝利を修めた。

不戦勝だった二年は、二回戦が決勝戦であった。相手校は戸畑中央高校。ずっと勝ち抜いてきただけあって、さすがに強い。しかし、これも我校の剣士達はみごとにうち破り、優勝を飾った。

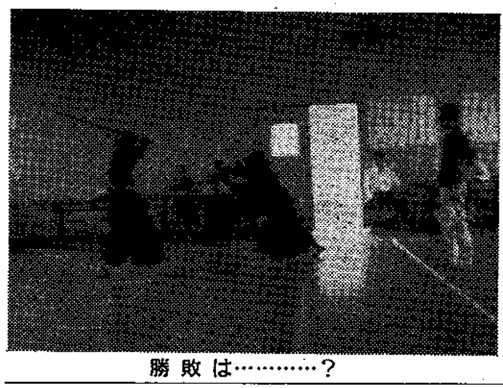
三年の決勝戦では、相手校が地元の若松商業高校であった。そのせいか、熱気に満ちた接戦だったが、ついに我校が勝利を修めた。スコアは次のとおり。

▼決勝（二年）
若松2－1戸中
先 大西 ーココ高島
中 高橋コメー 古崎
大 中野コメー 耳田

（三年）
若松2－1若商
先 佐竹メ ーメ(反)坂本
中 武田ドコー 平野
大 森 ココー 山田

柔道の方は、一回戦の相手校が今大会の優勝校である戸畑高校であり、苦しい試合だった。しかし部員一同、全力を尽くしていた。

この優勝校である戸畑高校には去年、我校が勝っている。そういうわけで、今大会の柔道の部において、もっとも注目を浴びたのはこの戸畑高校だった。


勝敗は…………？

▼籠球▲

若商体育館で行なわれたこの競技は、すでに予選が行なわれ本大会では、決勝戦だけとなっていた。試合はまず一年女子の決勝戦から。相手は戸中。本校の出足は好調で、みるみる間に点差を開き優勝‼次に一年男子の決勝戦、相手は戸高。この試合は、迫力も動きも抜群で、たちまち点差を開き優勝‼次に二年女子の決勝戦、相手は戸商。始めから点差を開き楽々と優勝‼次に二年男子の決勝戦、相手は戸高。後半から両校のせり合いが激しくなり、応援者の目もボールに集中。その興奮のうちに、一点差で本校が優勝‼次に三年女子の三位決定戦は、接戦の末惜しくも戸中に破れた。少ない応援の中でチームワークも一層強く、走る、跳ぶ、投げる等、コート狭しと活躍する選手達。まさに、手に汗を握る試合であった。

▼卓球▲

若商の裏手から、右には田んぼ、左には畑や木立ちがある。細いでこぼこ道を、六分ほど歩いた所にある二島小学校では、卓球の試合が行なわれた。

我校は、奮斗したにもかかわらず、一年生の成績があまり芳しくなかった。結果は、一年男女ともに一回戦で負けてしまい、二年男子もまた一回戦で負けてしまったが、女子のほうは優勝した。三年は男女ともに準優勝で先輩としての面目（？）を保った感じだ。しかし、部員同士の応援が足りなかったために、一部の選手は他校の応援に圧倒されて、充分に力が出せなかったようだった。

▼排球▲

若高生の見守る中を、我校体育館で、バレー（男子）の試合が繰りひろげられた。あいにく、女子のバレーは、青葉ケ丘高校、文化体育館で行なわれ、応援の男子諸君は、物足りなさそうであった。

しかし、女子の結果は予想を裏切り、一年女子の優勝だけに留まり、二・三年は惜しくも優勝を逃がしたが、男子の方は、二年が準優勝したほかは、一・三年ともみごとに優勝を勝ちとった。これは我校の大なる声援と練習に練習を積んだ選手諸君の努力の賜物が実を結んだ結果である。

強化と和

ークラブ合宿ー

うっとうしい梅雨も終り、うだるような暑さが始まったが、諸君は、夏休みをどのように計画しているだろうか。海に山にといろいろ計画を たてていることだろうが、いずれにせよ有意義にすごしてもらいたい。

各クラブでは、クラブ強化やチームの和等を目的とし、キャンプや合宿等をそれぞれ行なうように計画している。

生物
八月八～十日
地蔵原（九重）
昆虫・植物採集
地理
八月八～十日
熊本の五家荘
夏期調査旅行
山岳
北アルプス
七月二十一～三十一日
柔道
七月二十七～八月二日
学校（炊事もする）
演劇
ゼミナール
皿倉山
七月二十～二二日 演劇講習会
バスケット
一週間
学校
体を鍛える
ブラスバンド
八月上旬
学校
バレー
七月三十～八月二日
北山ダム（佐賀）
（未定は除く）

成果を期待

七月十五日に行なわれた高校野球予選を始めとして対外試合が、夏休み中に、多彩にくりひろげられる。日頃の練習の成果を十二分に発揮して、ぜひ勝利をおさめてもらいたいものである。また一般生徒の皆さんも応援に参加し、この暑さをふっとばそうではないか

さて、日程は、次のようになっている

野球
七月二十日 桃園球場
陸上
七月二十一・二十二日
県選手権予選
八月九日 直方十キロ
八月二十四・二十五日
県選手権大会
八月三十一日 国体予選
テニス
八月 全国大会
剣道
国体地区予選
国体県予選
玉竜旗争奪高校剣道大会
体操
七月二六・二七日 国体予選
バレー
七月 国体予選

盲点をつく

生徒の声

遅刻があたりまえ

八時三十五分ーバスを降りるとなだらかに続く我が校の門を、いつ切れるともなく続く遅刻者の列。遅刻するからといって急ぐけはいもないようだ。そこで、もう一度時間厳守について考えてみてほしい。このように連日遅刻者があとを断たないのは、みんなが時間というものを安易に考えているせいではないだろうか。八時三十五分というこの時間は、みんなが守ってこそ「若高の一日の始まる時刻」といえるのだと思う。しかし、実際ではこの時刻はただちょっとした登校時間の目安にすぎないようだ。理由を考えればいくらでもある。しかし、どの理由にしろ自分に責任があると思う。朝、眠いのはみんな同じ。今一度、朝のH・Rの始まりは八時三十五分このことを頭に入れてほしい。

声の出ないスピーカー

現在、各クラスでは先生方から委員会等の連絡が伝えられていると思う。そしてこれを聞きのがすと早が達せないことがあるのではないだろうか。こんな時、放送があったらどんなに便利だろうか。昼食のとき、楽しい音楽が流れると心よい気持ちになれると思う。何か放送が入らないと物足りないような気がする。みんなもこういう不便さを少なくとも感じているのではないだろうか。機械の故障や設備の面で放送できないそうだが、一日も早く放送できることを望みたい。

消えた投書箱

私たちは今、学校生活について不満を持っていると思う。しかし、思っているだけでどうにもならないのではないだろうか。以前、投書箱が設置されていた。とてもよい思いつきではないだろうか。が、意見を入れても反映されないし、それがどうなったかもわからないので無意味に思われる。又、何を書いて入れてもよいというのでふざけたことを書いて投書する人がいて困る。この二つの執行部と生徒とのくい違いによってお払い箱にされたようだ。投書よりも、直接執行部へ出向いて討論した方が効果があるかもしれない。しかし、そこまで勇気の出ない人にとって、案外この投書箱が役に立つのではないだろうか。

広い部屋へ

現在、若高にはクラブが三十前後あるようだが、その中で部室に満足している部がいくつあるだろうか。人数のわりに狭い部室。その狭い部室の中に充満する汗の臭いと熱気。我らにとってクラブ活動はなくてはならないものだ。その集いの場所である部室が、全部員も入らない程小さなものなのだから困ってしまう。掃除をしても全く変わらないのでなお困る。ぜいたくかもしれないがどうにかならないものだろうか。

わすれられた掃除

若高の校舎は三（四）階建てで鉄筋作りでたいへんりっぱだ。しかし、一歩校舎内に入るとはたしてりっぱだろうか。どろのついた靴で歩いた足跡。小さなごみがあちらこちらに。この学び舎は私たちの第二のすまいではないか。それを自らよごしてそのままにしておくとはもってのほかだ。ぴかぴか手あか一つなくするのは無理だが、せめて誠意をこめて掃除をしてもらいたいと思う。そして、気持ちのよい学び舎にしようではないか。

先生宅訪問

誠実がモットー

社会科・日高先生

七月六日、梅雨あけかなと思うほどからりと晴れている。緑色の新芽に、まぶしいほどの太陽の光が、さんさんとふり注いでいる。

今日は地理を担当されている日高先生宅を訪問するのである。

ボタ山の合い間を通り、長い鉄橋を渡ると筑前垣生駅がある。下車の後、細い道路を数分歩くと視野が急に開ける。遠賀川である。川に沿って十分ほど歩くと先生宅がある。書斎へ通されると、先生がお子様を抱いて来られた。そこで私達は、さっそくインタビューを開始する。

ー御出身地、出身学校はー

中間市大隈出身。中間国民学校ー中間中学校ー筑豊高校ー八幡大学ー法政大学。

ー教師になられた動機はー

小さい子が好きなので小学校の教師になったが、自分自身を伸ばす為に中学校、高等学校と進んだ。

ー学生時代の思い出はー

小学校二、三年の頃、戦時中で勉強がなかったのが嬉しかった。それから、宿題を忘れて机のふたを持ったりしたよ。（笑い）

ー初恋は、いつ頃ですかー

異性を意識したのは小さい頃で、いつというのは、はっきり覚えていないね。

ー御趣味はー

うろうろするのが好きだね。と言っても、人の少ない海や山、素朴な所だよ。それから読書の方も少し。

ー好きなテレビ番組はー

プロレス、タイムショックだね。

ー若高生徒会についてどう御考えですかー

ホームルーム活動がうまくいっていないし、執行部と生徒会とがうまくかみ合っていないようだね。

ー長髪のことについてー

規制をするのが意味ないと思うね。個性的なものが出ればいいんじゃないかね。人間は外形ではなくて内側が大切なんだから。

ーモットーとされていることはー

誠実さ、言いかえれば純真さ。

ー生まれ変わってくるとしたら男女どちらがいいですかー

そりゃ男だね。女性になっていないから女はわからないけど。

次にお子様と遊んでおられた奥様にこちらへいらっしゃってもらって質問をすることにした。

ー先生に最初にお会いになった時の印象はー

（少し笑いながら）結婚して八年にもなるので忘れてしまったわでも気性は気が短かかった様ですね。

ー現在の先生はどうですかー

以前とかわりなく気が短いです。

ー先生は亭主関白ですかー

大変亭主関白です。

ーこれから先、先生に望まれることはー

健康であってほしい。

先生が横から「そうやのう」とおっしゃり、奥様がそれにうなづく仲の良いところを見せつけられた。それに奥様のお話では、「政治面に気をつけろ」といつもしかられているということだ。「女も目覚めよ」（やさしい奥様をしからないで）

再び先生にソ連旅行の時のお話を聞くことにしよう

ー以前、ソ連旅行をされたそうですけど、どのようなところが日本と違いますかー

日本は、島国のせいかこせこせし過ぎているね。道を歩くにしても堂々としているよ。それからソ連の人は、時間の観念がないね。驚いたことは、ソ連は木材の輸出では唯一を誇っているのに紙が大変粗末だったよ。

私達は、二時間ほどおしゃべりして先生のお宅をおいとましました。

ぼく、最高に幸わせなの

ピントも露出もノータッチ！
おしゃれなカメラリコーオートハーフ
専用ケース（リコーマリンリ）をつければ。
カッコイイ水中カメラに早替り
さあ リコーでジャンジャン取りまくろう！
本　店　若松区本町銀座
二島支店　若松区二島新道
(有) 小田カメラ

御中元の贈り物は
若松
㊩ 丸柏

夏を規則正しく

—衛生面について—

◇七月も半ばをすぎ明日からいよいよ夏休みである。夏休みといえば、と◇
◇かく不規則な生活になりがちで、健康がそこなわれやすい時期でもあ◇
◇る。ところで〃健康〃といえば〃衛生〃、〃衛生〃といえば〃清潔〃と◇
◇いうように、これらは切り離すことができない。◇

本校では、五月の中旬から六月にかけて〃ダニ〃が、発生したことがあった。このため三十クラスの内十一クラスを消毒した。〃ダニ〃にかまれると不愉快な思いをするばかりか、特殊なものでは、病気にかかることもある。そこで保健の先生に〃ダニ〃が発生した原因をお伺いしたところ、はっきりとはわからないそうである。又それがダニかどうかも、はっきりしてないとのことであった。が、多分皆の食べ残したパン等が原因になっているのではないだろうか、ということであった。とすれば、ダニの発生の原因は我々にあるのである。

本校の生徒、特に男子で掃除をしないで早く帰る人が、多いように見受けられる。自分達の環境は自分達で、きちんとしたいものである。

これから流行するものの一つに食中毒がある。食中毒とは、飲食物を摂取したことによって消化器が、冒されることである。これにかかると、発熱、嘔吐、下痢、腹痛などの病症をおこすが、重症になると下痢や嘔吐のため、水分がたくさん体外に出る関係上、心臓が弱まることがあるそうだ。

食中毒の原因は、いろいろあるが、やはり細菌によるものが、圧倒的であるといわれている。これを防ぐには、常日頃から衛生に気をつけることで、これは今さら言う程のことではないと思うが、食事の前には、必ず手を洗うこと、生水、生ものはできるだけ避け、食品は新鮮なものを食べること、暴飲暴食は慎むことなど……。

どうも食べものにあたったらしいと思われる時には、腹一杯に塩水をのんで、指を口にさしこみ胃の中のものをすっかり吐き出すなどの応急処置をして医者にみてもらうことが一番である。

食中毒と並んで気をつけたいのは、日本脳炎である。夏になると日本は、田園はいうに及ばず、都会でもまだまだ蚊の天国である。日本脳炎の媒介蚊として知られているアカイエカ、コゴタアカイエカは、普通本州以南に多いといわれている。又、蚊ばかりでなくハエやゴキブリなどにも急性灰白髄炎（小児麻痺）を媒介する力があるので、これらの害虫は、早く駆除してしまわなければならない。

この日本脳炎にかかると、完全に治る率は、少ないそうだ。大体三分の一は死亡し、他の三分の一が完全になおり、残りの三分の一が後遺症を残して悲惨な状態になる。精神の発達がとまるもの、全身麻痺、精神病など様々で生涯苦しまなくてはならない。こんな恐しい病気は、早くなおさないといけない。蚊の発生を防ぐには、不用な水たまりを作らないことである。

日光がわれわれの生活に切り離すことのできない大切なものであること、そして又、健康の保持にも欠くことのできないものであることは、知っているだろう。従って日光浴をすると、太陽光線、特に紫外線や赤外線などが総合的に体に作用し、皮膚や全身の抵抗力を増したり、ビタミンDの蓄積などに効力をもつので、夏休みには存分に太陽の光を浴たいものである。しかし、ここで忘れてはならないのは、日射病である。日射病は、頭部、後頭部に強烈な太陽の直射をうけるとおこるので、外で運動をする時や、外出する時は、必ず帽子をかぶることが必要である。病状として、顔がまっかになる、汗がへって呼吸数や脈はくが増す、歩行が乱れる、こんすい状態に陥る、失神するなどが見られる。暑い日にこのような症状をおこしている人を見たら、すぐに涼しいところに連れていき衣服を脱して通風をよくし楽な姿勢で休ませてやることである。

一般に夏の病気を防ぐには、規則正しい生活をすることが必要である。夜ふかしは、ねびえ、風邪の原因になるし、又、睡眠を妨げることにもなるので、絶対にしないこと。又、過労は避け、充分な栄養をとり、日頃から健全な体力と病気に対する抵抗力をつけておくようにすることである。

他校訪問

礼儀を重視す

—小倉南高校の巻—

去る七月五日、我々新聞部員は、富見電停を目の前にする、小倉南高校を訪れた。この学校は、明治三十六年に文部省設立許可を受け、明治三十九年に、福岡県企救郡立農学校として開校された。その後、たびたび校名を改称して、今日に至ったのであるが、普通高校としては、昭和二十年に発足したそうで、まだ歴史は新しい。しかしながら、今年で創立六十五周年という古いりっぱな歴史を持っているという。その事は、玄関に一歩、足を踏み入れた時に、何かしら感じられるものがあった。このように古くからの歴史と共に、生まれ受けつがれたのかここでは、先輩と後輩との間のことば使いや礼儀などについては、たいそうきびしいそうである。

生徒総数は、約千五百人で、男女の比は、三対二だそうだ。クラス編成は、一年生が男女クラス、二、三年生は、理科系、文化系、就職とに別れるのだそうだ。尚、文化系は男女クラスで、理科系は、我校と比べて女子が少なく、九名しかいないそうである。

クラブ活動は、文化部二十、体育部十二、同好会四とあって、同好会には、吟詠等、我校にはめずらしいものがある。又体育部で盛んなのは、剣道部・テニス部・陸上部だそうで、練習もなかなか盛んのようである。しかし、残念ながら、本校で盛んであるハンドボール部はないとのことである。

校内は、一年の教室だけが鉄筋コンクリート建てで、あとは木造、全て二階建てである。特別教室は少なく、音楽教室と化学教室くらいであった。又、図書館は、市や町に建てられている公共の図書館を思わせる、すばらしいものであった。中を見学したかったのだが、あいにく閉館で、見学することができず本当に残念であった。体育館は一階建て。中では、たくさんの体育クラブ員が所狭しと、練習に励んでいた。剣道場は、我校とは比べ物にならないほどすばらしく、うらやましい限りであった。道場内では建物に劣らず静粛に、かつ気迫に満ちた練習ぶりを見せていた。

学校行事としては、文化祭が毎年九月始めに二日間行なわれるそうだが、これにかける予算が少ないということと、代休がないということが、不満であるという話であった。

生徒会改選は年に一回、十月ごろだそうだが、立候補者が少なく、信任投票になりがちなのだそうだ。

しかし、クラス討議はよくやっているとのことで我校は、これさえやっていないのが現状なので、この点は見習ってほしい。長髪については、十年ほど前から問題になっていて父兄や女子の反対にあい、今日に至っても、まだ実現されていないそうだ。

補習は、一、二年生は一週間に三日、三年生は毎日やっているそうだ。又、夏休みは、七月二十六日から八月四日までの十日間で、希望生だけとのことだ。

この学校では風紀委員が、遅刻検査をしていて、遅刻をすると、生徒手帳を取り上げられ、昼休みに職員室に呼び出されることになっているそうだ。我校にこんな規則があったら、職員室は、いっぱいになるのではあるまいかと、悲しい予想がたてられる。

男女交際は、一般にはあまり活発ではないそうだ。それで、他の人が交際しているのを見ると、焼けてくると話してくれた。この辺は、どうやら本校も同じようである。

このように、古いりっぱな歴史を背負った校舎の中で、明るく溌刺と、勉強にスポーツに励んでいる小倉南高校と、再会を約束してお別れすることにしよう。

正しい水泳指導を

最近、ひんぱんに水の事故が、あいついで起っているが、若高の諸君は、どのくらい泳げるだろうか。アンケートの結果は次のとおりである。

あなたは泳げますか。

はい	七〇%
いいえ	三〇%

どのくらい泳げますか。

二五米以下	二五%
五〇米以下	三〇%
一〇〇米以下	二〇%
一〇〇米以上	二五%

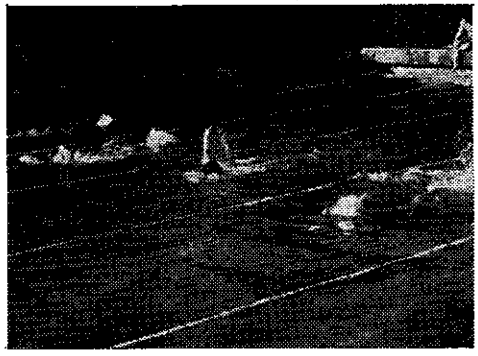
プールで泳ぐのは好きですか。

はい	七〇%
いいえ	三〇%

昨年、何回泳ぎましたか。

一回	七%
二〜五回	三五%
六〜十回	五〇%
一一回以上	八%

これを見てわかるように、若松は、海に恵まれているはずなのに泳げない人が三〇%もいる、この理由を問うと、泳ぐのが嫌いとか泳ぐ機会がないといったわけである。最近、このごろ海が汚れているので、仕方ないかも知れない。



練習に励む水泳部員

泳ぐ距離として、二五米以上が多いのは以外である。それに二五米以上になると、プールでは泳ぎにくいのではないだろうれそかなのに泳ぐ場所は、プールが重である。

その反面、プールの嫌いな人の理由としては、たくさんの人が泳ぐので、水が汚れているうえに、何が含まれているかわからない。そして、目の病気などが移り易いと言う。一般に、プールに対する反感が多い。また、プールでは自然の様子が味わえないが、海川では鮮やあわび、さざえなどがあり我々を十分に満足させてくれる。

次に学校での体育授業としては泳ぐ時間をもっとふやして、基本から正しい水泳指導をしてもらいたい。そして、人数を少なくすると、水もきれいだし、上達も早くなる。それに、シャワーをつけてプールの中を、もっと清潔にしてほしい。これらは体育授業としての要求である。

明日から待望の夏休みだ。悔いのないように泳ごうではないか。

高い聴取率

—深夜放送—

1	ヤングポップス	二四%
2	スマッシュ11	一四
3	陳平花の予備校	一三
4	ユーアンドミー	一一
5	スタディインポップス	一〇
6	ジャンピングデスク	八
7	25時の討論会	六
8	夢のハーモニー	五
9	ラジオ講座	三
10	KBCジャーナル	三
11	その他	三

・オールナイト日本
・ザ・パンチパンチパンチ
・ザ・ヤングヤングヤング

先日とった深夜放送についてのアンケートの結果は右記のとおりである。この結果から見てもわかるように、よく聞かれている番組は一般にポピュラー、歌謡曲を中心としたものである。その中には「ユーアンドミー」などのように司会者のおしゃべりを中心としている番組もあるし、「スタディインポップス」のように、勉強と軽音楽を織り混ぜた番組もある。

また、クラシックを思う存分に聞かせてくれる「夢のハーモニー」など、票数こそ少ないけれど地味で魅力のある番組だと言えよう。

以上、主に音楽に関する番組についてとりあげたけれども、今度はここで見のがしてはならぬ番組についてとりあげてみよう。

まず「25時の討論会」これは、私達が日頃考えていることや、思っていることについて私達若者の代表者が討論しあうのである。例えば最近問題になっている〃学生運動〃や、学生にとって（主に大学生）最も身近な問題〃下宿について〃等である。この番組は、若者がいろいろな問題にどのように考えているかということを軸にした番組だろう。つまり、若者の意見を聞くための、また知るための番組である。次に「KBCジャーナル」は、朝、新聞を読む時間の少ない私達にとって、社会のでき事を知るために適したものだろう主に三年生に関係のある「ラジオ講座」など、さらに自分の実力を伸ばすために必要な番組だと言えるだろう。時間的にみて一体何時ごろに集中しているだろうか。前記に掲げた結果からみて、十一時ごろと、一時ごろの二つに分かれて集中していることがわかる。

最後に深夜放送の是か否かは別にして明日のために疲れを残さぬよう注意していただきたい。

ちょっと一言

朝のすがすがしい空の下「おはよう。」と呼びあう皆の明るい声が響きわたる。実に気持ちのよいものだと思う。ところが、先生方の場合になると、なぜか皆急におとなしくなってしまうのだが、これは一体どうしたことだろう。

〃あいさつ〃というものは、それをしたからと言って、はっきりとした形が表われるわけではないけれど、何か気分的によいものではなかろうか。

先生方だからと言って、何も特別にしなくても、皆に接するのと同じように気軽にしては、いかがかな。このことについて、今さらここで言うまでもなく、皆よくわかっているだろうと思う。でも、なぜそれが実行できないのだろうか。

『先生方に、あいさつしようと思っても恥かしくて。』と思っている女子の方々。『もう高校生にもなって〃おはようございます〃なんておかしくってできないよ。』と思っている男子の方々。それから、『あいさつなんて、意味ない。』と思っている方々。もう一度〃あいさつ〃について考えてみてはどうだろう。

日本人は元来、礼儀正しい人種だとされてきたが、今日の私達はどうだろうか。

礼儀正しいかな。皆さん。自己診断をやってみてはどうかな？

編集後記

今号は、皮肉な雨の為に室内競技のみとなった若戸大会をトップに取り上げてみました。選手諸君の健闘により例年どおり良い成績を修めることが出来ました。

また、生徒の意見を反映させようとアンケートの結果や新聞部主催による長髪についての座談会を開いたりしてその模様を記事にしてみました。座談会は、低調に終ってしまいましたが、この新聞を読むことによってより以上に興味を持ってくれることを期待します。

さあ！本格的な夏がやって来ます。健康管理に気をつけて、意義ある毎日を送りましょう。

本格派テクニックの店
アサヒラボ
本町三丁目

新刊、書籍、雑誌
西日本読書感想画コンクール
指定図書販売店
石松書店
本町銀座　TEL ⑯ 2415

世界で一番進んだ視力測装置
ポラテスト　検眼機完備
アイチ眼鏡店
本町三丁目　TEL ⑯ 3312